

血圧脈波検査

臨床検査技師 照井実咲

血圧脈波検査とは、血管の硬さや詰まり具合(＝動脈硬化の程度)を調べる検査です。両腕と両足首に血圧計のカフを巻き、それぞれの部位の血圧と脈波を測定します。当院では主に ABI(足関節上腕血圧比)と CAVI(心臓足関節血管指数)の値を測定しています。

ABI (Ankle Brachial Pressure Index：足関節上腕血圧比)

ABI とは足と腕の血圧比の指標のことで、「足の血圧÷腕の血圧」で計算されます。正常な人では足と腕の血圧は同じくらいか足の方が少し高くなっているため、ABI は 1.0 以上となります。しかし、足の血液の流れが悪くなると腕より足の血圧が下がってしまい ABI の値は低下します。ABI が 0.9 以下だと足の動脈が狭くなっていたり詰まっていたりする可能性が考えられます。

1.40 < ABI	異常高値(動脈の石灰化疑い)
1.00 ≤ ABI ≤ 1.40	正常範囲
0.91 ≤ ABI ≤ 0.99	境界域
ABI ≤ 0.90	異常低値(狭窄や閉塞の疑い)

*2011 年 ACC/AHA ガイドライン



CAVI (Cardio Ankle Vascular Index：心臓足関節血管指数)

CAVI とは心臓から足首までの動脈の硬さを反映する指標のことです。正常な動脈は柔らかいので血圧が変化すると血管壁が伸び縮みし脈の波がゆっくり進みますが、動脈硬化が進み血管が硬くなると血管壁が膨らみにくくなり脈の波が速く伝わります。この原理によって算出される CAVI は動脈硬化が進行するほど高い値になります。

同じ性別、同じ年齢の健康な方の CAVI 平均値と比べることで血管年齢が分かります。

9.0 ≤ CAVI	動脈硬化の疑い
8.0 ≤ CAVI < 9.0	境界域
CAVI < 8.0	正常範囲

